

教頭通信デジタル

令和4年11月22日（火）第21号

文責：備前市立三石中学校 早川政宏

交流をとおして学ぶ【表現が見える】

10月の後半から三石中学校は様々な交流活動を行っています。目的は2つあります。

- 考えや思いを発信し、表現する力を身につける。【表現の見える化】
- 社会スキル（他人と関わる力）を獲得する。【小規模校の課題克服】

交流活動をとおして、指導の重点の1つである『表現の見える化』を推進していきます。そして、小規模校では獲得が難しい社会スキルの獲得をめざします。

部活動での交流【ソフトテニス部・吹奏楽部】

10月12日（土）・13日（日）、ソフトテニス部は中国ミズノカップジュニア選抜ソフトテニス選手権大会に参加しました。備前東地区秋季総体で優秀な成績を収めた学校が招待させる大会で、広島県三次市で行われました。普段は対戦できない県外の学校と試合（交流）することができ、非常に良い経験ができたのではないのでしょうか。11月13日（日）、吹奏楽部は備前市市民センターで行われた備前吹奏楽フェスティバルに伊里中学校と合同チームで参加しました。このフェスティバルに向けてZoomを活用して顔合わせを行い、両校を行き来しながら合同練習を重ねてきました。非常に迫力ある、素晴らしい演奏でした。顧問からは、「合同練習（交流）が良い刺激となり、各校での練習が今まで以上に意欲的になった」と聞きました。交流することで相乗効果が現れています。



市内ALTとの交流【希望者】



10月26日（水）放課後、希望者を対象としたオンライン英会話教室（イングリッシュデイ）を行いました。備前市内のALTの協力を得て、Zoomで英語交流を行いました。英語の授業やモーニングイングリッシュにおける学びの成果を実践する良い機会となりました。毎月1回の実施を計画しています。三石中学校の交流はこれだけではありません。教頭通信第22号に続きます。